



HAGIWARA TIMES

道道熊牛御影線 十勝橋架換工事(上部工)2工区/馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事

Vol. 110
2026.

7



● 施工状況 5月27日撮影

道道熊牛御影線 十勝橋架換工事(上部工)2工区



● 柱頭部コンクリート打設



● 張出施工部コンクリート打設



● 柱頭部完了



● 張出施工閉合部コンクリート打設



● PC片持架設機械組立

- 施工場所：河西郡芽室町
- 発注者：北海道十勝総合振興局 帯広建設管理部
- 施工業者：日本高圧・萩原・栗林特定建設工事共同企業体
- 施工期間：令和6年10月16日～令和8年9月24日
- 進捗率：90.0%(5月末現在)

土木

本工事は、道道熊牛御影線における橋梁上部工架替工事です。橋長389.8m、幅員9.2m、橋梁形式ポストテンション方式PC5径間連続箱桁橋であり、本工事はそのうちの約半分、196.2mを施工します。主な工種としてはPC片持箱桁橋工、橋梁付属物工、コンクリート橋足場等設置工、構造物撤去工、橋台工、道路土工、舗装工、踏掛版工、仮設工となります。令和5年に同工事の1工区を同じJVで受注し、令和7年10月に無事竣工しました。当工事も進捗は90%を超え、8月中の竣工を目指して鋭意施工中です。現在は地覆工、橋台工等を主に施工しており、その後に橋梁用防護柵工を施工する予定です。完成間近となりましたが、最後まで無事故・無災害で工事を終わられるように安全管理を徹底します。

主任技術者：狛守 文伸(写真左端)



● 外観

馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事



● 前室



● 製氷室



● 保冷库

- 施工場所：帯広市稲田町基線8-11
- 設計監理：都間社設計事務所
- 施工期間：令和7年9月1日～令和8年2月28日
- 発注者：清水 寛
- 施工業者：萩原建設工業株式会社
- 進捗率：100%



本工事は、馬鈴しょを外部エネルギーに頼ることなく貯蔵できる倉庫の建設工事です。今回採用したアイスシェルダーは、冬期間に蓄えた氷の冷熱を利用し、防熱扉を開放して倉庫内へ冷風を送り込むことで、電力を使用せずに庫内を低温に保つことができます。工事にあたっては、高校の通学路が隣接していたことから、登下校時間帯の搬出入を避けるようにしました。また、現場内が狭いことから、車両誘導や資材置き場の配置について事前に十分な打ち合わせを行い、安全な施工ができるよう努めました。無事故・無災害で竣工を迎えることができましたのは、施主様をはじめ関係者の皆様のご理解とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

現場代理人：神田 一樹 / 担当技術者：池田 瑞基

建築

学生とともに取り組む環境保全活動



5月15日、帯広市を流れる「機関庫の川(清流地区)」にて、特定外来生物「ウチダザリガニ」の防除活動を実施しました。今年は、帯広畜産大学のボランティアサークル「とことこあるこう」の学生5名も参加し、当社社員含めて総勢24名での活動となりました。

この活動は地域環境の保全を目的に2009年から続けており、今年で17回目。昨年の反省を踏まえ、今年は捕獲前日にかごを設置。当日はかごの回収・確認に加え、岩の下を探しながら手作業などでも捕獲を行い、合計52匹を捕獲しました。

活動には、元百年記念館学芸員の池田亨嘉氏にもご協力いただき、「卵付きの個体を捕獲できたことは大きな成果」との評価をいただいたことから、繁殖期前の適切な時期に防除活動を行えたことがわかりました。活動後は、捕獲したザリガニの計測や試食も実施。学生からは「ハサミ部分に身が詰まっていておいしい」「ザリガニ以外の生き物もいて楽しかった」との声が聞かれました。

社員からも「専門家の話を聞きながら活動できる貴重な機会だった」との感想があり、学生や地域の方々と交流をしながら、自然環境への理解を深める一日となりました。



安全運転の積み重ねに、お米で感謝! ~ 優良運転者表彰

6月1日は当社の新年度スタートの日。そして、社員にとって楽しみな日でもあります。当社では、無事故・無違反運転を継続した社員に、お米を支給する福利厚生制度があり、毎年6月1日にお米が渡されます。この取り組みは1987年、創立70周年を機にスタートし、今年で39年目を迎えました。

対象は当社を含む萩原グループ5社の社員。自動車安全運転センターが発行する無事故・無違反証明書(SDカード)の継続年数に応じて、3年以上で5kg、5年以上で10kg、10年以上で20kgのお米が支給されます。2025年度は199名が対象となり、支給したお米の総重量は2,720kgにのぼりました。萩原建設工業単体では約8割の社員が支給を受けています。

この制度には、「社員一人ひとりの安全運転が、安心・安全な地域づくりにつながる」という思いが込められています。また、近年のお米の価格高騰もあり、社員やその家族からは「毎年楽しみにしている」「家計にも助かる」と好評です。今年初めて10kgのお米を受け取った社員は、「自転車の交通ルールも始まったので、これまで以上に気を引き締めて安全運転に取り組みたい」と話していました。

萩原社長から「交通ルールを守ることは、自分自身だけでなく家族や地域を守ることもつながります。これからも安全運転を続け、より多くの社員がお米を受け取ってくれるとうれしい。」と語り、安全運転の大切さを改めて呼びかけました。



社内で最長の受け取り!

今月の表紙

撮影:営業部 仁藤 正憲

今月の表紙は、十勝の大地に広がる秋播き小麦の収穫風景です。かつてはお盆前に収穫を終えていた小麦も、品種の変化に伴い、今ではすっかり7月の風物詩となりました。秋播き小麦は十勝畑作の「エース」と呼ばれる主力作物であり、農業大国・十勝を支える重要な存在です。十勝の小麦生産量は日本一を誇り、北海道内でもトップの年間25万トンを超える収穫量を誇ります。今年も実り豊かな収穫となることを願うばかりです。

